

CentreCOM® 8724SL/8748SL リリースノート

この度は、CentreCOM 8724SL/8748SL（以下、CentreCOM を省略）をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。

このリリースノートは、取扱説明書とコマンドリファレンスの補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。

最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 2.6.1 pl04 (2.6.1-04)

2 本バージョンでの制限事項

ソフトウェアバージョン 2.6.1 pl04 には、以下の制限事項があります。

2.1 ログについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」

DESTINATION=NVS のログ出力先定義において、MESSAGES パラメーター（保存するメッセージの最大数）に 92 以上の値を指定した場合、NVS には指定値に満たない数しかメッセージが保存されません。

2.2 SNMP MIB オブジェクトについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

SNMP の MIB オブジェクトについて、以下のような制限があります。

- MIB-II の ifInErrors、イーサネット MIB の dot3StatsFrameTooLongs が正しくカウントアップされません。
- ブロードキャスト受信時に、VLAN インターフェースの ifInDiscards (MIB-II) がカウントされます。
- ブリッジ MIB の dot1dStpPriority、dot1dStpBridgeMaxAge、dot1dStpBridgeHelloTime、dot1dStpBridgeForwardDelay に値を設定できません。

2.3 フローコントロールについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

DISABLE SWITCH PORT FLOW コマンドでフローコントロールを無効にした後、CREATE CONFIG コマンドで設定を保存し、SET CONFIG コマンドで保存したファイルを起動時設定ファイルに指定すると、システム再起動時にエラーが表示され、フローコントロールが無効になりません。設定ファイルを EDIT コマンドで開き、「flow=jamming,pause」の部分を「flow=pause」に修正するか、再起動トリガーを使用して対処してください。

2.4 DISABLE SWITCH PORT コマンドについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

DISABLE SWITCH PORT コマンドを実行すると、指定したポートが物理的にリンクダウンし、LINK/ACT (L/A) LED が消灯します（対向機器のポートもリンクダウンします）。

2.5 ポートミラーリングについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

システム再起動後にソースポートをタグ付きに設定した場合、同ポートでタグなしパケットを受信すると、タグ付きでミラーポートから出力されます。このような場合は、設定を保存した後、システムを再起動してください。

2.6 ポートセキュリティーについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

- ポートセキュリティーがオンのポートが、ある VLAN にタグ付きポートとして所属している場合、その VLAN から同ポートを削除すると、同ポートが所属する他の VLAN の FDB スタティックエントリーも削除されます。
- ポートセキュリティーがオンのポートにおいて、送信元 MAC アドレスがブロードキャストかマルチキャストのパケットを受信すると、このアドレスを FDB に登録します。ただし、通信には影響ありません。

2.7 ポート帯域制限機能について

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

タグなしポートに 1000Kbps 未満の受信レート上限値 (INGRESSLIMIT) を設定している場合、同ポートからタグ付きポートに転送されたパケットが正しく送信されません。これを回避するには、受信レート上限値を 1000Kbps 以上に設定してください。

2.8 "PROTECTED" オプション付き VLAN について (8748SL のみ)

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「バーチャル LAN」

8748SL では、PROTECTED オプション付きで作成した VLAN に IP アドレスを設定した場合、SHOW SWITCH FDB コマンドを実行すると、スイッチ自身の MAC アドレスを持つスタティックエントリーが表示されますが、これは表示だけの問題で動作には影響しません。無視してください。

2.9 スパニングツリープロトコルについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「スパニングツリープロトコル」

スパニングツリープロトコル有効時、フォワーディング状態のポートに対して DISABLE SWITCH PORT コマンドを実行し、通信復旧後に再度 ENABLE SWITCH PORT コマンドを実行すると、通信が復旧しなくなります。フォワーディング状態のポートに対して DISABLE SWITCH PORT コマンドを実行しないでください。

2.10 ハードウェア IP フィルターについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ハードウェア IP フィルター」

- 8748SL では、ポート 25 ~ 48 とポート 49 で受信したパケットに対して、ハードウェア IP フィルターの SENDNONUNICASTTOPORT、SENDEPORT アクションが機能しません。
- SET SWITCH L3FILTER ENTRY コマンドの実行時、変更したエントリーと既存のエントリーの間に矛盾が生じた場合、変更したエントリーが無条件に削除されます。SET SWITCH L3FILTER ENTRY コマンド実行時に「Error (3087288): Switch Operation failed.」と表示されたときは、SHOW SWITCH L3FILTER ENTRY コマンドで変更したエントリーが削除されていないか確認し、削除されていた場合は ADD SWITCH L3FILTER ENTRY コマンドで再度追加してください。
- EPORT パラメーターを指定した場合、フィルター対象パケットの終点 IP アドレスが L3 テーブルに登録されていないと、NODROP アクションが機能しません。L3 テーブルに登録されているときは正しく動作します。

2.11 802.1x 認証について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「802.1x 認証」

- Authenticator ポートの Port Status が authorised であるにもかかわらず、Supplicant が通信できなくなることがあります。このようなときは、ACTIVATE PORTAUTH PORT REAUTHENTICATE コマンドで Supplicant を再認証してください。
- システム起動直後、ケーブルを接続していない Authenticator ポートに対して SHOW PORTAUTH PORT コマンドを実行すると、Authenticator PAE Status が INITIALISE であるにもかかわらず、Port Status が authorised と表示されます。
- Windows 2000 Server (IAS) を RADIUS サーバーとして使用している場合、本製品の Supplicant ポートは認証されません。

2.12 ICMP メッセージについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

ICMP Host Unreachable メッセージの送信に時間がかかることがあります。

2.13 TRACE コマンドについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「概要」

TRACE コマンドの実行完了前に次の TRACE を実行すると、本製品がリポートすることがあります。最初の TRACE が完了するのを待つか、STOP TRACE コマンドで最初の TRACE を中断してから次の TRACE を実行してください。

2.14 IP 統計情報の表示について

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「IP インターフェース」**

- ファイアウォール（AT-FL-02）有効時、SHOW IP INTERFACE COUNTER コマンドで表示される受信/パケットカウンター（ifInPkts、ifInBcastPkts、ifInUcastPkts、ifInDiscards）に、実際の受信パケット数の 2 倍の値が表示されます。
- ICMP アドレスマスク応答メッセージ受信時に、inAddrMaskReps カウンターがカウントされません。

2.15 ディレクティッドブロードキャストアドレス宛のパケットについて

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「IP インターフェース」**

- 異なるネットワークからディレクティッドブロードキャストパケットを受信した場合、本製品が返す Reply パケットの送信元 IP アドレスに、受信インターフェースの IP アドレスがセットされず、送信元にもっとも近いインターフェース（パケットを実際に送り出すインターフェース）の IP アドレスがセットされます。
- IP インターフェースに対して、クラス標準でないネットマスクを設定している場合、標準マスク時のディレクティッドブロードキャストアドレス宛パケットを正しくルーティングできません。

2.16 RIP について

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (RIP)」**

- ADD IP ROUTE コマンドで設定されたネクストホップルーターが属するインターフェースから、スタティックまたは OSPF 経路情報が RIP で正しく通知されません。
- ADD IP RIP コマンドの AUTHENTICATION パラメーターに MD5 か PASSWORD を指定した場合、CREATE CONFIG コマンドで設定を保存し、SET CONFIG コマンドで保存したファイルを起動時設定ファイルに指定すると、システム再起動時にエラーが表示され、該当インターフェースの RIP 設定が有効になりません。これを回避するには、設定ファイルを EDIT コマンドで編集してください。

たとえば、vlan10 でパスワード認証を使う場合は、次のような箇所を探します。

```
add ip rip int=vlan10 send=rip2 receive=rip2 auth=pass
set ip rip int=vlan10 pass=xxxx
```

この箇所を次のように書き換え、AUTHENTICATION パラメーターと PASSWORD パラメーターが同一行になるようにしてください。

```
add ip rip int=vlan10 send=rip2 receive=rip2 auth=pass pass=xxxx
```

2.17 OSPF について

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (OSPF)」

ASBR から受信した AS 外部経路をルーティングテーブルに反映しないことがあります。このような場合は、RESET OSPF コマンドを実行してください。

2.18 DNS サーバーアドレスの動的取得について

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」

ADD IP DNS コマンドの INTERFACE パラメーターで、DNS サーバーアドレスを DHCP で動的に取得するよう設定していないにもかかわらず、DNS サーバーアドレスが動的に取得されます。

2.19 DNS キャッシュについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」

DNS キャッシュ機能のキャッシュサイズを 1 に設定した場合、最初のキャッシュエントリーがエージングも上書きもされずに残り続けます。キャッシュサイズを 1 に設定しないでください。

2.20 ソフトウェア IP フィルターについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「ソフトウェア IP フィルター」

- ADD/SET IP FILTER コマンドで OPTIONS パラメーターを指定した場合、フィルターが正しく動作しません。
- 本製品が送信するパケット (PING コマンド実行により送信される ICMP パケットなど) に対してはポリシーフィルターが機能しません。本製品がルーティングする通常のパケットに対しては正しく機能します。

2.21 マルチホーミングと UDP ブロードキャストヘルパーの併用について

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「UDP ブロードキャストヘルパー」

マルチホーミングした IP インターフェース上で UDP ブロードキャストヘルパーを使用する場合、後から設定した論理インターフェースがナチュラルサブネットでない (ネットマスクがクラス標準マスクでない) と、この論理インターフェースでパケットを受信したときに UDP ブロードキャストヘルパーが機能しません。UDP ブロードキャストヘルパーを使用する論理インターフェースは一番最初に設定するようにしてください。

2.22 ICMPv6 メッセージについて (AT-FL-13)

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」

ICMPv6 Address Unreachable または No Route To Destination メッセージの送信に時間がかかることがあります。

2.23 PIM-DM/PIM-SM (AT-FL-03) について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「PIM」

インターフェースがダウンしたことにより IP の経路表からエントリーが削除されても、PIM の経路表からはエントリーが削除されません。

2.24 ファイアウォール (AT-FL-02) について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」

- PUBLIC 側で受信したパケットを破棄した場合、SHOW FIREWALL POLICY コマンドの COUNTER オプションで表示される Total Packets Received カウンターが 2 ずつカウントされます。
- 不正な Ack 番号を持つ TCP セグメントに対しても Ack を返します。

2.25 VRRP について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「VRRP」

CREATE VRRP コマンドの PORTMONITORING を ON に設定した場合、VR に所属するすべてのインターフェースの PRIORITY が 0 になると、短期間に大量の VRRP パケットが送出されてしまいます。

2.26 DHCP サーバー機能について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「DHCP サーバー」

- DHCP サーバー機能とローカル IP インターフェース (SET IP LOCAL コマンド) を併用した場合、DHCP OFFER メッセージを再送するときにローカル IP インターフェースの IP を使用せず、パケットを送出するインターフェースの IP を始点 IP アドレスとして使用します。
- MacOS X など一部の OS を搭載したコンピューターがスリープ状態から復帰するときに IP アドレスを取得できない場合があります。このようなときは、リースされている IP アドレスを一度解放し、再度取得させるようにしてください。

3 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

同梱の取扱説明書、および CD-ROM に収録されている「CentreCOM 8724SL/8748SL コマンドリファレンス 2.6 (Rev.A)」の補足事項です。

3.1 HTTP サーバー（サポート対象外）について

本製品はデフォルトで HTTP サーバー（サポート対象外）が有効になっているため、IP 有効時は TCP ポート 80 番がオープンしています。セキュリティを重視する場合は、DISABLE HTTP SERVER コマンドを実行して、HTTP サーバーを無効にしてください。

3.2 送信元アドレスがマルチキャストアドレスのフレームについて

受信した Ethernet フレームの送信元アドレスがマルチキャストアドレスだった場合、このフレームは転送されずに破棄されます。

3.3 スイッチポートの統計カウンターについて（8748SL のみ）

8748SL では、ポートグループ「1～24、50」と「25～48、49」をまたぐパケットは、SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドで表示される ifOutUcastPkts、ifOutErrors、DropEvents カウンターにカウントされません。

3.4 1000Mbps ポートのフラディングレートについて

リンクしている 10/100Mbps ポートの数によって、拡張モジュールの 1000Mbps ポートのブロードキャスト、マルチキャストの転送率が下がる場合があります。

3.5 ポート帯域制限機能の受信レート上限値と TCP 通信のスループットについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

スイッチポートに受信レート上限値（INGRESSLIMIT）を設定している場合、同ポートを経由した TCP の通信では、TCP データのスループットが設定した上限値よりも低くなります（低下の度合いは通信状況に依存します）。これは TCP プロトコルの特性として、帯域制限機能によって破棄されたパケットの再送処理などが発生するためです。また、TCP 以外においても、同様の再送処理を行うプロトコルではこの現象が発生する可能性があります。

3.6 フォワーディングデータベースについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「フォワーディングデータベース」

1 回目のエージアウトでは、すべてのダイナミックエントリーがフォワーディングデータベースから削除されない場合があります。ただし、2 回目以降のエージアウトではすべてのダイナミックエントリーが削除されます。

3.7 ハードウェア IP フィルターについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ハードウェア IP フィルター」

- IPv6 ルーティングを有効にしている場合、ルーティング対象の IPv6 パケットに対して、Ethertype = 0x86DD (IPv6) の条件を持つハードウェア IP フィルターエントリーが

マッチしません。ルーティング対象の IPv6 パケットをフィルタリングするには、IPv6 フィルターを使用してください。ルーティング対象でない（スイッチングされる）IPv6 パケットには、前述のハードウェア IP フィルターがマッチします。

- IPX ルーティングを有効にしている場合、ルーティング対象の IPX パケットに対しては、SENDMIRROR 以外のアクションが機能しません。また、SENDMIRROR アクションと EPORT パラメーターは併用できません。ルーティング対象の IPX パケットをフィルタリングするには、IPX トラフィックフィルターを使用してください。なお、ルーティング対象でない（スイッチングされる）IPX パケットには、すべてのアクションが機能します（ただし、IP パケットを前提としている MOVETOSTOPRIO、SETTOS、MOVEPRIOTOTOS、SETIPDSCP アクションは使用不可）。
- フレームタイプ 802.3 raw の IPX パケットにマッチさせるため、DSAP / SSAP = 0xFFFF の条件を持つフィルターエントリーを作成した場合、このエントリーはフレームタイプ Ethernet 2 の IPX パケットにもマッチします。

3.8 802.1x 認証について

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「802.1x 認証」](#)

802.1x 認証を有効にしたポート（Authenticator、Supplicant とともに）では、ポートトラッキング、スパンニングツリープロトコル、ダイナミックポートセキュリティーを使用できません。また、Authenticator ポートをタグ付きに設定することはできません。

3.9 IP マルチキャストのハードウェア処理 (AT-FL-03) について

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP マルチキャスト」](#) / [「概要」](#)

スイッチ間をタグ付きポートで接続している場合、タグ付きポートを通過する IP マルチキャストパケットは、最初に ADD IP INTERFACE コマンドを実行した VLAN の VID を持つものだけがハードウェア処理の対象となり、他の VID を持つパケットはソフトウェア処理となります。ソフトウェア処理される場合のパフォーマンスは「ワイヤースピード ÷ VLAN 数」となります。タグ VLAN 環境で IP マルチキャストを使用するときは、タグ付きポートに割り当てる VLAN 数を 3 つまでにすることをおすすめします。

3.10 DVMRP (AT-FL-03) について

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP マルチキャスト」](#) / [「DVMRP」](#)

本製品の DVMRP 実装は、Internet Draft の「Appendix C」（古い DVMRP 実装との相互運用性に関する項目）には対応していません。

4 未サポートコマンド (機能)

以下のコマンド (機能) はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

- 以下の機能別キーワードを含む全コマンド

ENABLE の後に [?] キーを押すと表示される機能別キーワードです。

ACC, APPLETALK, BGP, BRI, CLASSIFIER, ETH, FRAMERELAY, GARP, GRE, GUI, PIM6, IPSEC, ISAKMP, ISDN, L2TP, LAPB, LAPD, LDAP, LOADBAL-ANCER, LB, LPD, MIOX, NTP, PKI, PRI, Q931, RSVP, SA, SERVICE, SSL, STAR, STARTUP, STT, SYN, TPAD, TACACS, VLANRELAY, X25C, X25T, TDM, DS3, VOIP

- 以下のコマンド (パラメーター)

太字はコマンド名、細字は該当コマンドのパラメーター名です。下線が引いてあるコマンド (パラメーター) は「CentreCOM 8724SL/8748SL コマンドリファレンス 2.6 (Rev.A)」に記述があります。

COPY

DUMP

START PKT

STOP PKT

SET PKT

TRACE [ADDRONLY]

PING [APPLEADDR ; OSIADDRESS] [SAPPLEADDRESS ; SOSIADDRESS]

SET PING [APPLEADDR ; OSIADDRESS] [SAPPLEADDRESS ; SOSIADDRESS]

SHOW SWITCH SOCK

SHOW SWITCH MEMORY

SHOW SWITCH SWTABLE

SET SWITCH SOCK

SET SWITCH PORT [MULTICASTMODE] [SPEED={10MHAUTO ; 10MFAUTO ; 100MHAUTO ; 100MFAUTO ; 1000MHAUTO ; 1000MFAUTO ; 1000MHALF}]

SET STP [MODE] [RSTPTYPE]

SET STP PORT [EDGEPORT] [PTP]

CREATE/DESTROY IP POOL

SHOW IP POOL

ADD/DELETE IP ROUTE FILTER [PROTOCOL={STATIC ; INTERFACE}]

ADD/DELETE IP ASPATHLIST

SHOW IP ASPATHLIST

ADD/DELETE IP COMMUNITYLIST

SHOW IP COMMUNITYLIST

ADD/DELETE/SET IP FILTER PRIORITY

ADD/DELETE IP EGP

ENABLE/DISABLE IP EGP
SHOW IP EGP
ADD/SET IP RIP [NEXTHOP]
ADD/DELETE/SET IP ROUTEMAP
SHOW IP ROUTEMAP
ADD/DELETE IP SA
SHOW IP SA
SET IP ARP [DLC] [CIRCUIT]
SET IP RIP NEWIPADDRESS
SET IP AUTONOMOUS
SET IP FLOW
SHOW IP FLOW
SHOW IP CACHE
SHOW IP ROUTE [CACHE]
SHOW IP ROUTE TEMPLATE
SHOW IP ROUTE MULTICAST
ENABLE/DISABLE IP FOFILTER
ENABLE/DISABLE IP MULTICASTSWITCHING
ENABLE/DISABLE IP SRCROUTE

ADD/DELETE DVMRP [DLC]
ADD/DELETE DVMRP INTERFACE [DLC]
SET DVMRP [DLC]
SET DVMRP INTERFACE [DLC]

ADD/DELETE IPV6 FILTER [PRIORITY]
ADD/DELETE IPV6 INTERFACE [PRIORITYFILTER]
SET IPV6 FILTER [PRIORITY]
SET IPV6 INTERFACE [PRIORITYFILTER]
ENABLE/DISABLE IPV6 MLD
ENABLE/DISABLE IPV6 FLOW
ADD/SET IPV6 INTERFACE [TYPE=ANYCAST]

CREATE FIREWALL POLICY DYNAMIC
ADD/DELETE FIREWALL POLICY DYNAMIC
ADD/DELETE FIREWALL POLICY PROXY
ADD/DELETE FIREWALL POLICY SPAMSOURCES
ADD/DELETE FIREWALL POLICY HTTPFILTER
SET FIREWALL POLICY SMTPDOMAIN
SET FIREWALL POLICY ATTACK
ENABLE/DISABLE FIREWALL POLICY SMTPRELAY
ENABLE/DISABLE FIREWALL POLICY HTTPCOOKIES

CREATE QOS
ADD/DELETE QOS
SET QOS PORT
SET QOS POLICY

SET QOS TRAFFICCLASS
SET QOS FLOWGROUP
SHOW QOS POLICY
SHOW QOS TRAFFICCLASS
SHOW QOS FLOWGROUP

CREATE/DESTROY PPP [AUTHMODE] [BAPMODE] [CBMODE] [CBDELAY]
[COPY] [DEBUGMAXBYTES] [DESCRIPTION] [FRAGMENT]
[FRAGOVERHEAD] [LOGIN] [MAXLINKS] [MRU] [NULLFRAGTIMER]
[NUMBER] [TYPE]
ADD/DELETE PPP [AUTHENTICATION] [CBDELAY] [CBMODE] [CBNUMBER]
[CBOperation] [COMPALGORITHM] [COMPRESSION] [CONFIGURE]
[MODEM] [NUMBER] [PREDCHECK] [RESTART] [STACHECK] [TERMINATE]
[TYPE]
ADD/DELETE/SET PPP ACSERVICE
ADD/DELETE/SET PPP TEMPLATE
ENABLE/DISABLE PPP TEMPLATE
ADD/DELETE PPP MAXSESSIONS
ADD/DELETE PPP ACRADIUS
ADD/DELETE PPP VLAN
ENABLE/DISABLE PPP ACCESSCONCENTRATOR
ACTIVATE PPP RXPKT

ADD/DELETE/SET PIM INTERFACE [SRCAPABLE]
SHOW PIM [STATEREFRESH]

SET BOOTP MAXHOPS
ENABLE/DISABLE DHCP [BOOTP]

